

令和2年度 理科 授業改善推進プラン

①現状・観点別分析

- [1学年] 認知能力検査の結果から、認知能力の4、5段階の上位の生徒が少なく、数的能力が全体的にやや低い。また、数的能力と言語能力とも低い層が何人かいる。学習に向かう様子は良い面とあまり良くない項目に分かれている。また、日頃の小テストや定期考査の結果からも小学校の既習事項に対する知識の定着ができていない生徒がいる。また、授業への忘れ物が多い、提出物に丁寧に取り組む姿勢がない、など関心・意欲が乏しい生徒が見られる。
- [2学年] 認知能力検査の結果から認知能力では4、5段階の高レベルの生徒がいて思考力の特性でとても良いと判断されている項目が多い。普段の授業でもまじめに取り組む生徒が多いが、積極性に乏しい生徒や意欲に乏しい生徒がいる。実験では、きちんと理解した上でしっかり取り組むことができていない生徒がいる。
- [3学年] 授業にまじめに意欲をもって取り組む生徒が多くなってきた。しかし、学力テストの結果では、1、2年の範囲の問題で、平均をやや下回る結果となっている。また、1、2年の範囲の理解と知識の定着ができていない生徒が一定数いる。グラフを読み解く問題が苦手な生徒が多い。定期考査では、かなり頑張っただけで学習した様子が見られる。しかし、計算を必要とする中和の問題ができていない生徒も多い。

②課題

- [1学年] 既習事項に対する知識の定着や、密度や重量パーセント濃度などの問題や文章題を解くために必要な数的能力・言語能力の伸張に課題がある。また、授業の課題に丁寧に取り組む姿勢の育成に課題がある。
- [2学年] まじめに取り組む生徒が多いが、より積極的に、意欲的に取り組む生徒を増やしていくために工夫ある課題を設定することが課題である。
- [3学年] 既習事項に対する理解と知識の定着に課題がある。また、グラフを読み解く問題や計算を必要とする問題を解くことに課題がある。

③具体的な改善策（「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善）

【「関心・意欲」をより引き出すために】

- 教科書の内容を身近な事象や話題になったニュースなどに関連づけて、興味をもたせたり、自分でその単元に関連することを調べさせたりするなどの機会を作る。
- お互いに調べたことや理解したことを発表させるなど、生徒同士学び合う機会を多く設定する。

【「知識・理解」を深く身に付けるために】

- 必要に応じて既習事項を振り返り、繰り返し復習する機会や、授業の中でお互いに教え合いながら理解を深め知識を定着させる機会を多く設定する。また、1時間ごとの振り返りをしっかり行う。

【「実験観察の技能」、「思考・判断」の力を伸ばすために】

- 普段から、全員が実験・観察に携われるように、個人で行う観察・実験と小グループで協力して行う実験をバランスよく配置する。「課題を設定する」、「仮説をたてる」、「実験する」、「結果をまとめる」、「思考して結論を導き出す」という過程の中に、一人で考えたり自分で文章にまとめてみたりする時間や、グループで話し合っただけで一つにまとめたり、工夫しながら取り組んだりする時間をバランスよく入れて授業を進める。また、グラフや表の数値を読み取り、内容からどの公式を利用して解くのか判断させる機会や、計算を用いて解く密度や重量パーセント濃度、湿度などの問題を解く機会を多く設定し、じっくり考えさせる機会を意識的にとる。

